

# 横間の伝統をつなぎたい。その一心で――

「今年も祭りを無事に開催できてよかった」と笑顔を見せるのは、7月20日に行われた市指定無形民俗文化財「横間虫追い祭り」の保存会会長を昨年から務めている畠山修悦さん。

「祭りで使う人形の制作を専門でやってきた自分は、会長をやるタイプでねえんだけど。地区の伝統行事を守るために、頑張らねえと、と思って」と語る。

安代町史によれば、祭りは、天明3（1783）年の飢饉の際に山伏が現れ「五穀

豊穰」と「悪病退散虫追い」をしたのが始まりとされ、悪い虫をはらう鬼を模した男

人形・女人形を掲げた行列を作り、かねや太鼓を鳴らしながら「五穀豊穰、稲虫はらえ、豊作祭りや」と集落を練り歩く、祈りの行事です。

この地で生まれ育ったが、祭りのことを知ったのは「働き始めてからだなあ」という畠山さん。「昔は大人だけでやってたんじゃないねえがな。小さいころは行列に参加した記憶がねえもん」

※行列の様子は先月号の「広報はちまんたい」表紙を参照



「何としても横間の伝統をつなぎたい。その思い一心でやっています」と語る畠山さん

横間虫追い祭り（市指定無形民俗文化財）保存会会長

## 畠山修悦さん

はたけやま・しゅうえつ 75歳 曲田横間

という。また、祭りに関わり始めたのは「当時、大工として働いていたせいか、先輩に教えられながら、人形制作に携わったのがきっかけ」とも。今は、人形制作に使う稲わらは、自分の田んぼで収穫したものを使い、着せるタスキは、マンダの木の皮を用い、自ら制作している。

※シナノキ（マダとも呼ばれる）

これまでを振り返り「祭りには、40年ぐらいいし、か携わってねえけど、頑張って取り組んできたなあ」と感慨深げ。祭りを若い人に伝えようと、教えながら準備に当たるが「さっさと準備するので、見ていて気持ちが良い」と感心する。

人が減り、行列をなす人数は少なくなった。祭りの維持



虫追い行列で担ぐ、鬼を模した人形を、出発前に確認する畠山さん(左)

昭和24年生まれ。勤め先を退職した現在は、インドウ、水稲栽培を「自分の楽しみで」行っている。今年も息子に譲ったが、長年、行列の先頭に立ち「五穀豊穰、稲虫はらえ、豊作祭りや」と掛け声を切り出す役を務めてきた。「青空の下で、大きな声を出して歩くのは気分が良いもんだよ」と笑顔を見せる。

は大変だが「市外に働きに出ていった人が、祭りに合わせ、子ども連れで帰って来てくれるのが嬉しい」と目を細める。コロナ禍で休んだが、去年、今年と、お客さんを招いて開催し、祭りは取り戻した。来年は「もっと良い祭りに」と考えている。「人がいなくて大変だけど、まあ、頑張んのよ」と力を込める。

【広告】この広告は、広告主の責任において市が掲載しているものです。

関節痛、腰痛、骨を丈夫に

コミュニティバス

「八幡平中央整形」バス停そば

(八幡平中央 整形外科・内科クリニック)

漢方のあさひ薬局

八幡平市大更25-118-1 TEL.0195-75-2227

■編集後記

▽市制施行20周年の節目に合わせて、表紙をリニューアルしました。表紙を見て、まずは手に取ってもらい、さまざまな情報を知ってもらうことも、より多くの人にもっと本市を好きになってもらえるような広報づくりに取り組みたいです。◎

▽白坂観音例大祭を取材。昨年はスケジュールの関係で見られなかった山車巡行を、撮影のベストポジションを教えてもらいながら、ようやくカメラに収めることができました。間近で見た山車の迫力に圧倒されつつ撮影した巡行の様子は、市公式Instagramでも紹介しています。①

※8月15日の「二十歳のつどい」の様子は10月号でお伝えします。

※広報はちまんたい9月11日号(No.363)の印刷経費は1部112.74円、発行部数は9,565部です。経費の一部は広告料で購入されています。広告掲載は、(株)総合広告社(☎019-626-3370)まで。

